

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	住之江区
学 校 名	南港光小学校
学校長名	北村 満夫

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南港光小学校では、第6学年 **28**名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科では大阪市平均を2ポイント（昨年マイナス1ポイント）、全国平均を0.3ポイント（昨年マイナス1.2ポイント）上回った。算数科では、大阪市平均を1ポイント上回り（昨年マイナス3ポイント）、全国平均を0.4ポイント下回った（昨年マイナス3.5ポイント）。両教科ともに大阪市平均を上回ることができた。全国平均に対しては、算数科で昨年度より改善が見られた。無回答の問題が少なく、平均無答率は全国や大阪市と比較してかなり低い数値であり、児童は問題に粘り強く取り組み、学習して得た力を積極的に表現しようとする姿勢が身についていると伺われる。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕総合の正答率が、大阪市や全国の平均を上回ることができた。領域別に見ると「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」ではそれぞれ、全国平均を2.1%、3%上回ることができた。話し合い活動で発表したり、聞いたことをまとめたりすることや、自分の考えを書いて伝える活動を取り入れたりしてきた成果と考えられる。しかし、「C読むこと」では全国平均2.8%下回った。問われていることについて、前後の文脈もとらえながら、文章を比較して読み解く思考力・判断力を育てる指導の充実が必要である。

〔算数〕総合の正答率では大阪市を上回り、全国を0.4%下回った。しかし、昨年度より全国との差が縮まっていることから、これまでの算数の指導力向上の取り組みの成果が見られる。4つの領域別に全国と比較すると、「A数と計算」の領域では、-0.5%で差が縮まった。四則計算の反復練習による基礎基本の定着を図る取り組みの成果が表れている。「C変化と関係」は-2.9%で、差が縮まった。「Dデータの測定」も-0.2%に差が縮まっている。数学的な物の見方や考え方を働かせて事象をとらえたり、思考を深めたりする指導の効果がさらに表れている。「B図形」の-2%は前年度（+0.1%）と比べて低下した。ICT機器の活用や操作活動を通して五感で学び取る指導の更なる充実に向けて取り組んでいる。

質問調査より

児童質問紙によると、「自分にはよいところがあると思いますか。」の肯定的回答率は92.9%で全国（84.1%）を上回った。また、同項目での本校の前年度の割合86.4%と比較しても高い数値となった。異学年交流、道徳の学習や、学級でのさまざまな取り組みの成果が自己肯定感を高めていると考えられる。「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。」の肯定的回答率も96.4%で全国（87.9%）を上回った。教師と児童が学力を高める目標に向かって意欲的に取り組んだ成果が総合成績で全国平均を上回るか、ほぼ同等という成果に結びついていると考えられる。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の肯定的回答率は89.3%で協同的な学習に積極的に取り組んできたことがわかる。

今後の取組(アクションプラン)

本校では、児童の読解力や情報活用能力の向上のために、図書室の積極的活用を学校運営上の目標の一つに挙げている。今後も文章に親しみ、内容理解の力を高めることで、基礎的な知識を増やすことと、問題文を正しく読み込める力を育てるようにする。

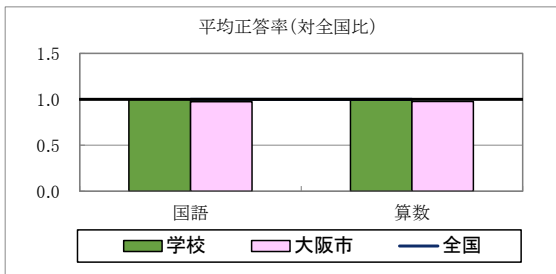
また、「主体的で対話的で深い学び」が促進されるように、さらなる授業改善を行い、意見の交流をする中で、学びを深めたり、広めたりできるようにする。

ICT機器のドリル機能なども活用して、図形に対する感覚を養ったり、漢字や言葉の意味、計算力を高める調べ学習や反復練習をしったりしていく。

【 全体の概要 】

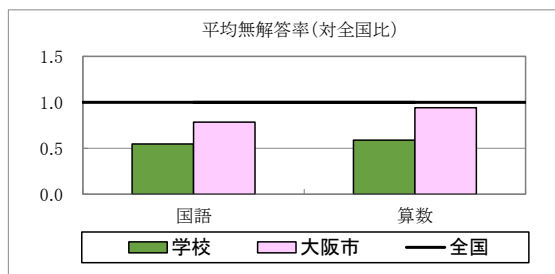
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	68	63
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	2.3	2.0
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



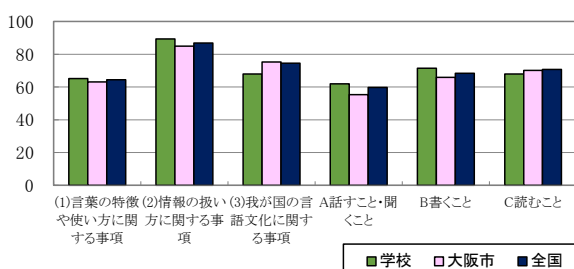
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	65.2	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	89.3	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	67.9	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	61.9	55.3	59.8
B 書くこと	2	71.4	65.9	68.4
C 読むこと	3	67.9	70.1	70.7

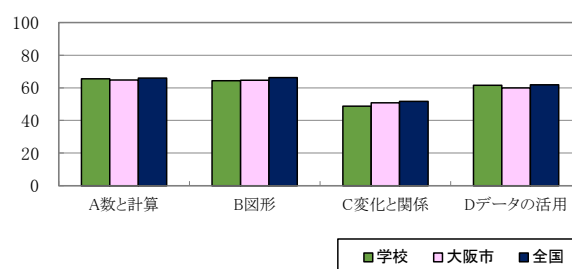
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	65.5	64.8	66.0
B 図形	4	64.3	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	48.8	50.8	51.7
D データの活用	4	61.6	60.0	61.8

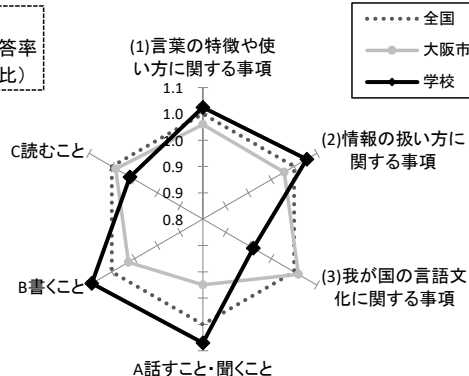
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



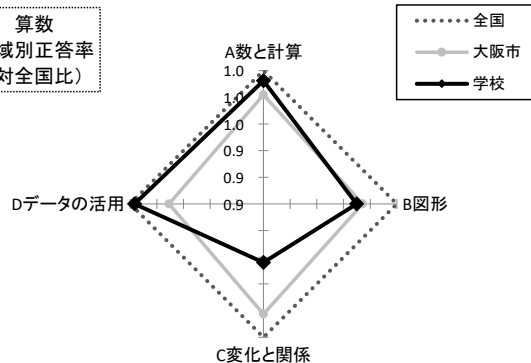
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



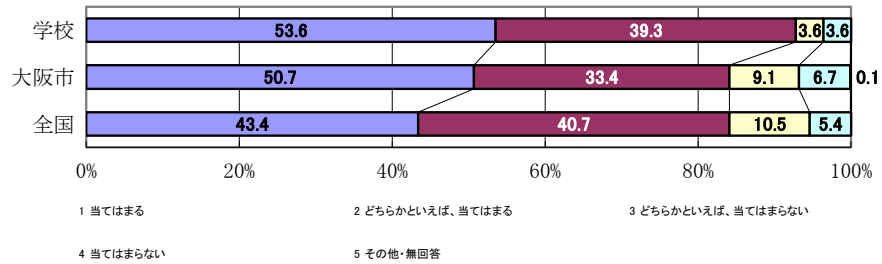
児童質問より

質問番号

質問事項

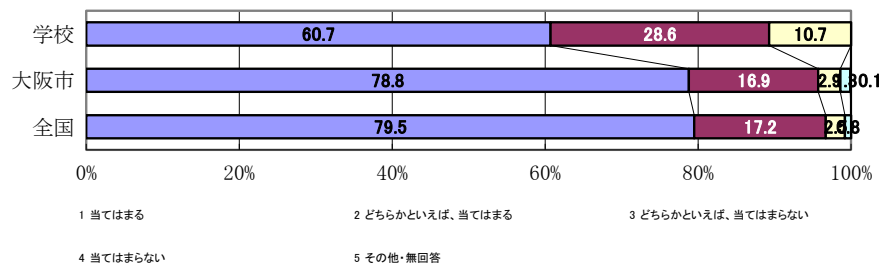
9

自分には、よいところがあると思いますか



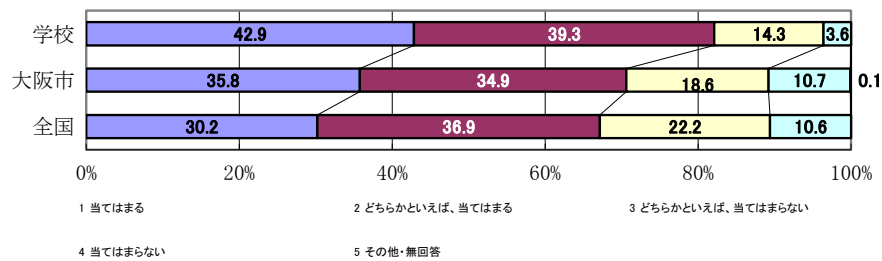
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



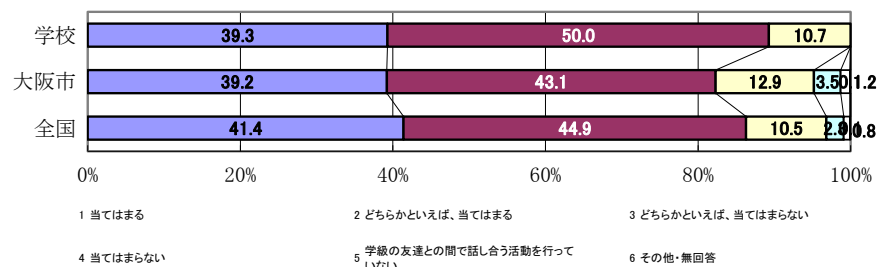
14

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



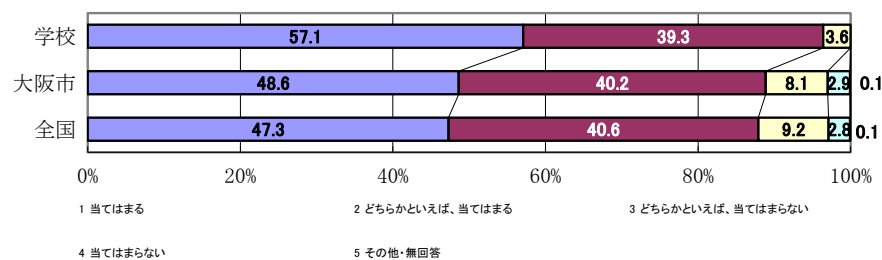
33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



36

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



学校質問より

質問番号

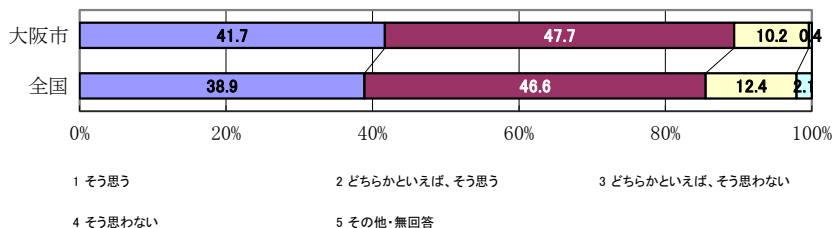
質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



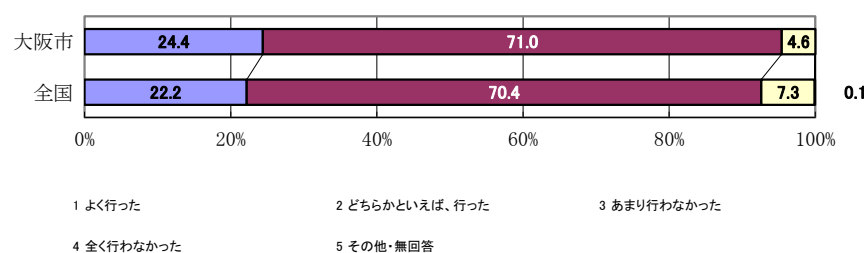
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



42

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行いましたか

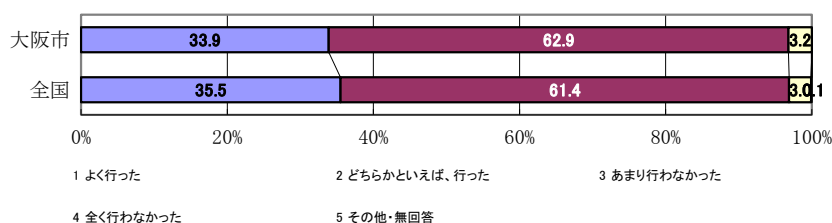
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



44

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか

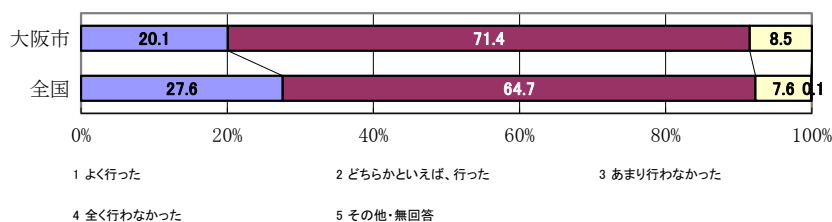
学校 「よく行った」を選択



45

調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

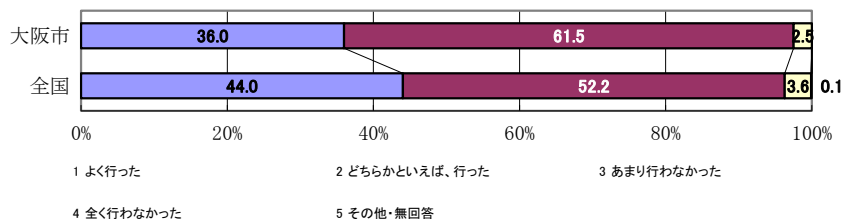
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



47

調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか

学校 「よく行った」を選択



学校質問より

質問番号

質問事項

53

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

学校 「ほぼ毎日」を選択

